

ネットワーク情報学部設置 10 年にあたって

ネットワーク情報学部長 伊東 洋三

2001年4月に経営学部情報管理学科が改組されて、ネットワーク情報学部が設置された。この10年間の情報分野におけるイノベーションには目覚ましいものがある。これからの10年間にどのようなイノベーションが生じるか予想することは容易ではない。

1994年に第二種電気通信事業者（2004年4月1日に施行された電気通信事業法改正によって第一種・第二種という区分がなくなった）と呼ばれる通信企業が企業会員、個人会員向けにインターネット接続サービスを始めた。翌年、パソコンのOSであるWindows95が登場することによりインターネットは急速に普及していった。初めは、個人向け接続サービスにはダイヤルアップ接続が使われたが、通信速度は128bps前後の低速回線であり、料金は従量制で、高額であった。

2000年ごろになると、ブロードバンド接続サービスが提供されるようになった。通信速度は下りが、8Mbps、上りが1Mbpsと高速であり、料金は定額制で、ダイヤルアップ接続を使用するよりも低額になった。そのことにより日本でも急速に普及した。

携帯電話の技術進歩と普及がもうひとつの柱である。携帯電話は1990年代に普及が進み、液晶ディスプレイが使われるようになった。1990年代半ばには通信方式がアナログからデジタルに移行し、着信メロディの設定や、メールが利用できるようになった。1990年代後半にはインターネットへの接続が可能となり、通信速度が向上した。2000年代に入ると第三代携帯電話が登場し、テレビ電話が可能となったほか、パソコンと接続して高速なデータ通信を行うことが可能になった。

2000年代になると、Appleは、iPod、iPhone、iPadと新製品を発表した。AppleはiTunesを2001年に音楽再生・管理ソフトとしてリリースした。またMacintosh専用のデジタル音楽プレーヤーiPodを発表した。これまでのデジタル音楽プレーヤーとは、iTunesのライブラリに収めた音楽を外へ持ち出すという点で異なるものであった。

AppleはiPod機能を搭載した携帯電話iPhoneを2007年に発売した。さらに2010年には、タブレット型コンピュータであるiPadを発売した。iPadでは電子書籍を購入することができる。

iPod touchに採用されたタッチパネルによるユーザインターフェースは、iPhone、iPadにも採用された。デジタル音楽プレーヤー、携帯電話、電子ブックリーダーはこれまでもあったが、Appleは、ひとつの製品群として展開した。しかもAppleのパソコン、Macintoshと強い関連をもたせて、パソコンのシェアを大きく高めることにも成功した。

Appleの成功は、これまでに作られてきた市場に、もっとユーザに満足してもらえる機能を付加した商品を提供することができたことによる。それには無線通信分野やパソコンとその周辺機器の分野における技術進歩と、製品やサービスの価格の大幅な低下が必要であったし、新しいソフトウェアも必要であった。

2011年に地上テレビは完全デジタル化される。今後テレビが情報端末として使われる可能性は高い。動画掲示板YouTubeやFacebook、TwitterなどのSNSのほかにもどのような情報サービスが登場するのだろうか。

YouTubeやFacebook、Twitterは、Appleの周到に計画された一群のハードウェア、ソフトウェア、コンテンツによるサービスとは異なり、身近なひとの間での情報のやり取りのために作られたサービスを起源としている。そのサービスが多くの人に受け入れられて、情報システムは進化して、巨大なサイトになったものである。

現在は、誰もが簡単に情報をやり取りすることができるようになってきたので、これからの情報システムは、多くの人にとって魅力的なサービスを提供するだけでなく、使いやすさも一層必要とされる。

ネットワーク情報学部からそのような情報システムが作り出されることを期待する。